

9) 野田沼におけるブルーギルの産卵場の特徴

井出充彦

【目的】琵琶湖で異常に増加したブルーギルを効率的に駆除し繁殖抑制を図るためには、産卵場に集まるブルーギル親魚を捕獲することが効果的と考えられ、産卵場を特定する必要がある。そこで、産卵場推定の指標とするため野田沼において産卵場の特徴を調査した。

【方法】湖北町東尾上地先の野田沼(面積8.6ha)において、平成15年5月29日から8月21日まで2週間に1回の頻度で、沿岸部のほぼ全周を歩き、箱眼鏡を用いて産卵床の有無を確認した。産卵床があった場合は、その水深、親魚の有無、周囲の形状等を記録した。

【結果】ブルーギルの産卵床群は、図1に示す2地点で確認された。図2にその特徴を示すように、いずれもヨシなどの抽水植物帯に三方を囲まれた入り江状の場所であった。底質は地点1が砂泥、地点2が泥混じりの砂礫で、いずれも産卵床の中心部は泥が払いのけられており、地点1では主に枯れヨシなどの堆積物が、地点2では砂礫が表面に出た状態であった。産卵床の直径は25cm～30cmであった。水深は地点1が40～80cm、地点2が45～80cmであった。ブルーギルの産卵床は、表1に示すとおり、地点1では6月12日から8月21日まで、地点2では6月12日から8月5日まで確認された。

【考察】今回の調査で産卵床群が確認された場所は、三方が抽水植物帯で囲まれた入り江状の場所であり、周囲がこのような形状であることが産卵床を作る場所の特徴の一つであると考えられる。ただし、同様に入り江状の地点が北端に1カ所存在していたが、ここでは産卵床が確認されなかった。その原因の解明にはさらに調査が必要である。また、確認した産卵床数が少ないことから今回確認されなかった他の地点でも産卵があった可能性もある。しかし、産卵床保護親魚を採捕するにあたっては、このような入り江状の地点を捕獲地点とすることによって、効率化することができるものと考えられる。



図1 野田沼におけるブルーギルの産卵床確認地点.

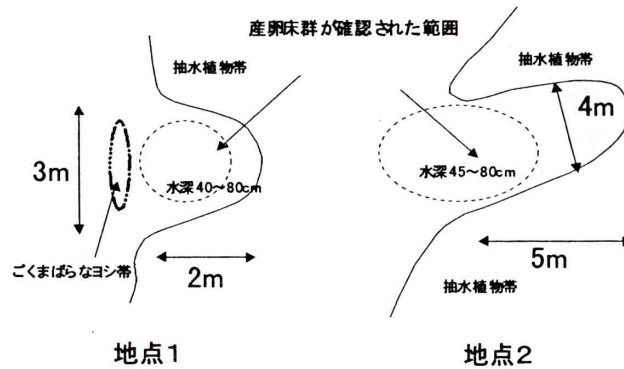


図2 地点1と地点2の模式図.

表1 確認された野田沼産卵場におけるブルーギル産卵床数および産卵床保護親魚数

調査日	地点	水温(°C)	産卵床数	保護親魚数
平成15年5月29日	1	21.1	0	0
	2	21.7	0	0
平成15年6月5日	1	21.3	0	0
	2	21.7	0	0
平成15年6月12日	1	22.2	3	1
	2	22.4	1	0
平成15年6月26日	1	22.7	—	—
	2	22.3	—	—
平成15年7月8日	1	23.9	3	0
	2	23.2	24	5
平成15年7月24日	1	24.2	10	1
	2	23.8	—	—
平成15年8月5日	1	28.8	5	2
	2	28.0	4	1
平成15年8月21日	1	29.6	5	0
	2	29.0	0	0

—：濁り等で、調査が実施できなかった。